

事業所の概要表

(令和 3年 6月 10日現在)

事業所名	グループホームおたふく					
法人名	株式会社ミツワ都市開発					
所在地	松山市空港通4丁目7番1号					
電話番号	089-973-3737					
FAX番号	089-973-2939					
HPアドレス	https://www.mitsuwat.co.jp/fukunokami/					
開設年月日	令和 2 年 3 月 26 日					
建物構造	<input checked="" type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> 鉄骨 <input type="checkbox"/> 鉄筋 <input type="checkbox"/> 平屋 (2) 階建て (1~2) 階部分					
併設事業所の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ()					
ユニット数	2 ユニット		利用定員数 18 人			
利用者人数	18 名 (男性 4 人 女性 14 人)					
要介護度	要支援2	0 名	要介護1	3 名	要介護2	5 名
	要介護3	5 名	要介護4	4 名	要介護5	1 名
職員の勤続年数	1年未満	15 人	1~3年未満	1 人	3~5年未満	0 人
	5~10年未満	0 人	10年以上	0 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 1 人		介護福祉士 10 人			
	その他 (2級 1名、初任者 2名、看護師 2名)					
看護職員の配置	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (<input checked="" type="checkbox"/> 直接雇用 <input type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)					
協力医療機関名	もりもと在宅クリニック、ローズペインクリニック、しろくま歯科					
看取りの体制 (開設時から)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (看取り人数: 1 人)					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	45,000 円	
敷金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円	
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円 償却の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	
食材料費	1日当たり	1,550 円 (朝食: 350 円 昼食: 650 円)
	おやつ:	0 円 (夕食: 550 円)
食事の提供方法	<input type="checkbox"/> 事業所で調理 <input checked="" type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input type="checkbox"/> 外注(配食等) <input type="checkbox"/> その他 ()	
その他の費用	・ 水道光熱費	12,000 円
	・ 共益費	15,000 円
	・	円
	・	円

家族会の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (開催回数: 回) ※過去1年間	
広報紙等の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (発行回数: 12 回) ※過去1年間	
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	5 回 ※過去1年間
	参加メンバー ※□にチェック	<input type="checkbox"/> 市町担当者 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 <input type="checkbox"/> 評価機関関係者
		<input type="checkbox"/> 民生委員 <input type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者 <input type="checkbox"/> 近隣の住民
	<input type="checkbox"/> 利用者 <input type="checkbox"/> 法人外他事業所職員 <input type="checkbox"/> 家族等	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 (コロナの関係により文書開催)	

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

“愛媛県地域密着型サービス評価”

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない
訪問調査を実施しております

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和3年8月3日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	11	(依頼数)	18
地域アンケート	(回答数)	2		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3890101870
事業所名	グループホームおたふく
(ユニット名)	グループホームおたふく1階
記入者(管理者)	
氏名	阿部真之介
自己評価作成日	令和3年 6月 10日

【事業所理念】※事業所記入 目配り 気配り 心配り	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 開設前には、接遇についての勉強会を繰り返し行った。その後は、管理者やリーダーが手本を見せて、気になる言葉がけ等があればその都度、話をしている。 朝礼時には事業所の理念(法人理念と同じ)を唱和している。 「自立支援を行う事業所」を目指しており、ラジオ体操、歩行練習、立位保持練習などを介護計画に挙げていた。 誕生日の利用者から「美味しい魚が食べたい」と希望があったことを受けて、握り寿司をテイクアウトした。メニュー表を利用者が見やすいように拡大して、個々に好きなネタを選ぶ機会をつかった。
---	---------------------------------------	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	ご本人やご家族と積極的に会話をし、その中で得た情報を申し送りノートに記入し職員で共有している。	◎		○	利用者から希望や意向等を聞いたら、タブレット端末の介護記録に入力している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	表情の変化で判断している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	ご家族の面会時に話をし、思いを知るように努めている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	タブレットに入力、申し送りをし、情報の共有をしている。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	ご本人の思いを見落とさないように努めている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	毎日の会話にて聞くように心がけている。			△	入居時に家族から聞いた生活歴等の情報を、利用者基本情報シートに記入しているが、既往歴や日常生活動作についての情報が主となっている。さらに、馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境などの情報もまとめて、本人らしい暮らしを支えるための基本情報としてほしい。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	申し送り等で一人ひとりの変化や出来事を共有している。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	不穏などがあつた場合は、ご利用者の思いを確認し、申し送り等で共有している。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	不安定になっている方に寄り添い、傾聴するように心がけている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	一人ひとりの体調などによって生活の流れを変えるようにしている。				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ご本人の困りごとや状態などをユニット会で話し合い、情報を共有し検討している。			○	ユニット会時に、介護計画のモニタリングや見直しの話し合いを行っており、その際には、医師や看護職員の意見等を踏まえて検討している。さらに、本人の視点となる情報を明確にしてはどうか。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ユニット会で話し合いを行っている。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ユニット会等で話し合いは行っているが十分でないところもある。				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ご本人の希望を聞き、意向に沿った内容になるように取り組んでいる。				
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	毎日の申し送りやユニット会等で話し合い、日々の様子やケアの方針を反映するようにしている。	○		○	本人、家族の意向や医師、看護職員、職員の意見を聞き、計画作成担当者がアイデアを出して介護計画を作成している。「自立支援を行う事業所」を目指しており、ラジオ体操、歩行練習、立位保持練習などを介護計画に挙げていた。家族から「お墓参りに連れて行きたい」と希望があり、立位保持の練習を計画に採り入れている事例がある。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	対応について、ご家族に相談しながら支援している。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	コロナの流行により、面会制限があるが、ご家族と協力して行っている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	ケアプランを一覧表にし、常に確認できるようにしている。またユニット会で話し合い共有できている。			○	ユニット会時に、介護計画のモニタリングや見直しの話し合いを行って共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎月モニタリングを実施し新たな気づきがあればユニット会で話し合い、自立支援に繋げている。			○	介護計画の援助内容を記入した一か月の表を作成し、毎日実践できたかを○×で記入している。
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的な内容を個別に記録している。	○	タブレットに個別に日々の様子を記録している。			△	タブレット端末の介護記録に入力しているが、その内容を探さなければならない。
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	タブレットや申し送りノートに記録し、情報を共有している。			△	タブレット端末の介護記録に入力するようになっていないが、記入は少なく、その内容を探さなければならない。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	ケアプランの計画期間に合わせて見直しを行っている。			◎	計画作成担当者が責任を持って期間を管理しており、6カ月毎に見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月ユニット会で毎回ケアプランについて検討している。			◎	毎月、ユニット会議で話し合った内容をもとに利用者個々の担当職員がモニタリングを行い現状確認を行っている。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	心身状態が変化したり入院者があった場合はご本人ご家族主治医に相談見直しを行っている。			○	看とり支援開始時や退院時など、身体状況に変化がみられたら計画を見直している。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月ユニット会で話し合っている。緊急時は都度話し合いを行っている。			◎	職員個々が話し合いたい内容を事前に考えておき、毎月、ユニット会を開催している。緊急案件があれば、その日の勤務職員で話し合っている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	会議の前に話し合いたいことについて声掛けを行い、当日スムーズに意見交換できるようにしている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	毎月最終火曜日を予定しているが勤務表を見て調整している。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議録を作成し、いつでも確認できるようにしている。			◎	タブレット端末に議事録を作成しており、内容を確認した職員は既読者一覧でわかるようなくみになっている。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容や方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートを作成し常に確認できるようにしている。			○	利用者の状態についてはタブレット端末に記入し、その他については申し送りノートや面会ノートに付けて記入して申し送っている。確認した職員は、それぞれにサイン等をするしくみをつくっている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	タブレットや申し送りノートで職員が周知できるようにしている。	○			
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	出来る限り希望に添えるようにしている。				
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	どうしたらいいか自己決定できるように声掛けを行っている。			○	誕生日の利用者から「美味しい魚が食べたい」と希望があったことを受けて、握り寿司をテイクアウトした。メニュー表を利用者が見やすいように拡大して、個々に好きなネタを選ぶ機会をつくった。
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	ご利用者が納得するまで話を聞くように心がけている。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	個人に合わせてできるように心がけている。				
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うろたえ等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	表情を見ながら喜びや楽しみを引き出すようにしている。			○	「家族のことを忘れないように」との想いで、写真立てに家族の写真を入れて、居間のテーブル席に置いておくとみられた。職員は、時々話題にして支援している。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	ゆっくりと話を聞いて本人の意識意向に沿えるようにしている。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	研修に参加するなどして学ぶ機会を多く持ち声掛けや態度について意識している。	◎	○	◎	1月の身体拘束についての事業所内研修時に学んでいる。開設前には、接遇についての勉強会を繰り返し行った。その後は、管理者やリーダーが手本を見せて、気になる言葉がけ等があればその都度、話をしている。朝礼時には事業所の理念(法人理念と同じ)を唱和している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であらさな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	人生の先輩であり尊敬の気持ちを持ってケアに携わっているが言葉遣いについては出来ていない時もある。			◎	椅子に座っている利用者には、職員は、すねをついて利用者の目線の高さに合わせ話を聞いていた。
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	トイレ、入浴には十分配慮しながら行っている。汚染時には準備不足で待たせてしまうこともある。				
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室はプライバシーの場所であることを把握している。ノックや声掛けし入るようにしている。			◎	利用者に「お部屋見せてもらっていいですか」と聞いてから入室していた。
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	研修等で理解している。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者介護される一方の立場におかず、利用者に向けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	家事活動をお願いしたときは、必ず感謝の気持ちを伝えている。				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	作業などを一緒にしていただくことで連帯感が生まれている。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルに陥り孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者につまづき力を発揮してもらつ場面をつくる等)。	○	相性の悪い利用者を把握し距離を置くなどトラブルに発展しないよう注意をしている。			○	テラスで歌を歌うような時には、テーブルを囲み皆で手をつないで歌うような場面をつくっている。意向の相違などがあれば、職員が仲に入って取り持っている。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が間に入り、不安を引きずらないように声掛けなど行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	家族から情報を引き出せるように努めている。				/
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	まだ十分把握できていない利用者もいるのでこれから情報収集に努めたい。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	今までの主治医が入居後も診療していただけるように支援している。コロナの流行により外出や面会が制限されている。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会時には必ず気持ちの良い挨拶を心がけている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	天気の良い日には散歩に出かけたり、ウッドデッキで日向ぼっこやお茶を飲んだりしている。	○	○	△	利用者から外出、外食の希望があるが、新型コロナウイルス感染症対策のため、支援を制限している。家族と受診等に出かける利用者がいる。 職員が併設建物の方に物品を取りに行くような時には、利用者を誘って一緒に行くようにしている。1階ユニットのテラスでお茶を飲むような時には、2階ユニットの利用者も誘ったりしている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナの流行により出来ていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	バリアフリーになっているウッドデッキは車いすでも過ごすことができる。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	感染症対策を行い家族の協力のもと外出の検討を行っている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	ユニット会で対応を話し合っているが今後も正しく理解していくように努めたい。				この一年間は、室内で運動、ラジオ体操、歩行練習など個別に取り組めるよう介護計画に採り入れて支援している。 利用者によっては、身長に合わせた立位訓練用手すりを用意している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	体操や散歩等を行い今の機能が維持できるように取り組んでいる。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来るだけ見守ったり一緒に行うようにしている。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	その方ができること(生け花、水やり、塗り絵など)提供できている。				定期的に移動スーパーが来ており、買い物できるよう支援している。 男性利用者のひとりには、ラジオ体操を行う際に前に立ち、皆の手本になってくれている。 「何かさせてください」と言う利用者もおり、洗濯物たみなどを一緒に行っている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	散歩や買い物など、その方が習慣としていたものを大切にしている。洗濯物たみや掃除にも積極的に参加して頂いている。出来ることをしていただくよう声掛け、セッティングを行えている。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	コロナの流行により、地域とのかかわりが持てていない。				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人と一緒に着る服を選んでいる。お化粧できるような支援している。				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを制限したため評価はできない。 ヘアクリームを付けて髪を仕上げたり、ピンで止めたりする利用者があり、職員は必要時に手伝っている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	本人と一緒に着る服を選んでいる。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人の気持ちに沿って支援できている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	コロナの為外出できないが、季節に合わせて選べるようにしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできたり、髪をカバーしている。(髷、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	整容の乱れや汚れなどは声掛けにて着替えるなど対応している。	◎		○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	行きつけの美容室に行かれる方もおられる。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	散髪、爪切り、整容等には気を付けるようにしている。			○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	安全に楽しく食事をすることができるよう雰囲気づくりや姿勢などにも気を付けている。					
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	食事レクやおやつ作りなどの機会を作り、食べたいものを選んで調理や片付けに参加して頂いている。			×	法人の厨房に委託業者が入って食事をつくっている。でき上がった食事が届くため、利用者が食事一連のプロセスにかかわる機会はほぼない。	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	食事レクの際には調理、盛り付け、後片付けなどに参加して頂いている。					
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	アレルギーの人や苦手なものがある人には別のメニューを提供している。					
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	△	施設の厨房で献立を作成しているため出来ていないが、誕生日などでその方にお好きな献立を作るようにしている。				○	委託業者の献立となっている。行事食や月に一回、特別食がある。テラスで育てたキュウリを塩もみにして食事に添えることがある。
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いれどりや器の工夫等)	○	一人ひとりの健康状態に合わせて刻みやとろみを使い工夫している。					
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	自宅から使い慣れた湯飲みなど持ってきてもらっている。					新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを制限したため評価はできない。
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	食事介助にて一緒にいるが食事はしていない。その方に合わせた食事ペースを大事にしている。				△	利用者の食事中、職員は、介助の必要な利用者の隣に座ってサポートに徹していた。
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	食事のメニューを伝えたり、食事が待ち遠しくなる雰囲気を作っている。	◎			△	誕生日の日に、ホットプレートを使って一緒に焼きそばをつくらうことはあるが機会は少ない。
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事量や水分量は毎食記録し必要な栄養がとれているかチェックしている。					
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	飲み物を変えたり工夫している。					
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	外部事業所により提供されているが給食委員会に参加し意見交換している。				△	職員で話し合うような場は持っていない。委託業者と定期的に話すような機会がある。デザートが好きだが、カロリー制限がある人については、医師や家族と相談して、主食量を減らしデザートは付けてもらえるよう話をした。
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	湯飲みは毎週日曜日にハイターにつけている。					
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの必要性を理解している。					
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時に確認している。			○	職員が把握している。歯科衛生士のアドバイスを受けており、利用者の状態によっては、舌用ブラシでケアしているケースがある。	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	職員が口腔体操している。訪問歯科の際にはケアの仕方を学んでいる。					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後義歯洗浄し、夜間には義歯を洗浄液につけている。					
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	自力で口腔ケアができる人にはしてもらい、仕上げを職員が行っている。				○	洗面所に個別の小さい鍵付きロッカーがあり、ネームプレートが付いていて、個々の状態によって歯ブラシ等を出し入れして使用している。調査訪問日の昼食後には、声をかけて手引き歩行等で洗面所まで誘導して支援していた。
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	異常があれば歯科往診している。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	排泄の仕方について検討したり確認を行っている。				入居時に紙おむつを使用しているケースについて、介護計画の目標に「トイレで排泄ができる」と挙げて試しながら支援に取り組んでいる。排泄用品のストックが切れる時を捉えて、適切性について検討している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	水分を多めにとってもらったり、便秘薬で調整している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排便・排便の兆候等)	◎	チェック表を付けて把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々々の状態にあった支援を行っている。	○	入居者の状況変化のある時は、職員同士で話し合い支援している。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	その方の状態を把握し、改善に向けた取り組みを行っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	時間やタイミングを見てトイレの声掛けや誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	昼と夜で合ったものを使用している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人ひとりに合わせて、パットやパンツを使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	果物や水分を多くとってもらっている。				
		20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	体調を見て入浴していただいている。その方に合わせゆっくりと入っていただくよう支援している。	◎	
b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。			○	入浴剤を入れたり、庭の花木を見てゆっくり入っている。				
c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。			○	洗えるところは洗っていただき、できないところを介助している。				
d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。			○	拒否があった場合は時間をずらしたり日を変えている。				
e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。			◎	バイタル、体調を確認し入浴の拒否を見極めていく。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	利用者の個人個人に合わせて寝る時間を考えている。				睡眠導入剤を使用する人については、医師に夜間の様子等を報告して相談しながら支援している。日中は、居間で過ごす人が多い。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中レクなどに参加されたり、ベランダに出たり散歩により活動量を増やしている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	夜間の睡眠状態については主治医に伝えている。日中の過ごし方から検討し取り組んでいる。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	お一人お一人好きな場所で過ごしている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	電話したり手紙をいただいている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	準備したり介助したり必要な支援を行っている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	配慮している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	知人等から届いた手紙はご本人や家族に伝えていく。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	お願いしている。手紙や電話されている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	移動スーパーで買い物ができる機会がある。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	コロナの流行により、外出制限を設けているため買い物ができにくい。移動スーパーの利用はしている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使うように支援している。	○	ご家族と話し合い手元に現金がなく不安な方は持っていたらいい。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族管理でお金を所持されている方がいる。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	所持されているご利用者の金銭については家族管理をしていただいている。				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	なじみの美容室に出かけてパーマやカットをされている。入院先から施設入所となった入居者の一時帰宅も計画している。	◎		×	特に取り組んでいない。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	下駄箱に季節のものを飾ったり明るい雰囲気を作っている。	◎	◎	○	駐車場が広く、車を止めやすい。玄関前には、信楽焼のためきの置物を置いており、花壇を整備している。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない暖かな共用空間等、家庭的な雰囲気をそよよと醸成しているか等。)	◎	毎月季節感のある壁画を入居者も一緒に作り、飾りつけている。	◎	◎	○	居間は広く、壁に大型テレビを設置して、テレビに向けてソファを配置している。テーブルは、合わせたり離したり、円にしたりして使用でき、行事や活動によって変えている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日職員が掃除をしている。			◎	掃除が行き届き、気になる臭いはなかった。駐車場側の窓やテラス側の窓から自然光が入っていた。調査訪問日、利用者は、椅子やソファに座り、テレビでオリンピック観戦をしていた。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	ベランダで季節の花や野菜を育てている。花をテーブルに飾ったり、収穫した野菜を調理して皆で食べたりしている。			○	テラスでは、野菜や花を育てており、居間からも見える。利用者の中には「緑が見えるとホッとすると」言う人もいます。季節ごとに居間の壁面飾りをつくり掲示している。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	ご自分の好きな場所に座っていただく。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	戸を閉めて見えないようにしている。またトイレの作りが外から本人が見えにくいように工夫されている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	自宅で使用したものを持ってきていただいている。	◎		○	会話の中で「三味線どうだったかな」と話すと利用者がおり、家族にその話を、自宅から本人の三味線を持参してもらった。本人が弾きたい時に弾けるよう居室に置いており、時々皆に聞かせてくれる。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレがわかるように表示している。			○	トイレの表示は、居間からも見えるようにしていた。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	危険なものは利用者さんの手の届かないところに置いている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に入るように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほろろ、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	チラシなどを手の届くところに置いて職員と一緒にゴミ箱を折る。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられられない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	日中出入口は開錠している。職員は虐待、身体拘束について研修で学んでいる。	◎	×	◎	日中、玄関は開錠している。身体拘束について勉強する機会に、鍵をかけることの弊害について学んでいる。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施設を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	玄関、居室のカギをかけていない。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけるなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	出入口は自由に出入りできるようになっている。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	個人記録にて把握している。情報を職員間で共有している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	身体状態の変化は職員同士で共有している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	看護師や職員でご利用者の状態をわかるようにしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	○	定期的に訪問診療していただいている。今までの状況も確認している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	ご本人ご家族の希望の病院を受診している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院についてはその都度ご家族に連絡している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院の際は施設での情報を申し送りしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	管理者が病院やご家族に定期的に状況を確認している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	かかりつけの病院と協力して入院の様子を伝達している。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	看護師を配置している。介護職と連携をとっている。				
		b	看護職もしく訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間連絡が取れるようになっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎朝バイタルチェックを行い、看護師も確認している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	申し送りをし理解するようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	二人体制で薬の確認を行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	排便チェック表を見て便の調整を行っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	特に変わったことがあれば看護師に報告し医師の指示のもと薬の調整をしている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時と看取りの際は話し合いを行っている。				日中は、各ユニットに1名ずつ看護職員を配置しており、医師や家族と話し合ったり、職員とのつなぎ役をしている。この一年間では、利用者一名の看取りを支援した事例がある。新型コロナウイルス対策期間ではあったが、対策をしっかりとって居室で家族と一緒に支援した。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	カンファレンスを行い主治医、ご家族ご本人、管理者ケアマネ等で話し合っている。	○	◎		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	状態によって対応を変えている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	その都度説明し理解していただく。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	ご家族の希望に従い支援している。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	ご家族の希望に従い支援している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	定期的に感染症についての研修を行っている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	研修し看護師が直接実技の研修を行っている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	回覧し熟読している。行政のホームページや新聞インターネットで情報を収集し注意喚起している。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	流行の状況に応じ対応している。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員やご入居者は手洗いアルコール消毒など徹底している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	ご入居者を外出にお連れしていただいたり、ホームでの行事に参加していただいている。				新型コロナウイルスの県内感染者数が落ち着いている時期には、利用者の誕生日に家族を招き、一緒に祝う機会をつくった。 電話で知らせたり、SNS(約7割の家族が使用)で写真を送付したりして報告している。テレビ電話も活用している。 法人内の介護事業所合同の施設広報誌にグループホームの行事等を写真付きで載せている。	
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	コロナの流行により、面会があまり出来ていない。					
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	誕生日には参加して頂いている。家族会は中止となる。	○		○		
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	ライン等で動画や写真を定期的に送っている。施設のたよりを毎月郵送している。		○	○		
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	来所持電話等でお話を聞きしご本人の様子等を報告している。					
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	入居時、来所持に聞き取りをし、ご本人との関係把握に努めている。					
		g	事業所の運営上の事務や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	施設広報誌を毎月郵送している。またブログでも発信している。		△	△		
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	コロナの流行により、家族会は中止となる。					
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	ケアプラン説明時や必要時には都度説明し理解を得るようにしている。					
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	来所持には声をかけ、相談しやすい雰囲気を作るようにしている。気になることを聞いている。			○		
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	説明し理解を得ている。				/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	支援している。					
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	同意を得ている。					
III. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	設立前は地域の説明会を行った。その後夏祭りや地域の行事に参加予定だったがコロナの流行により、中止となる。			◎	運営推進会議の地域メンバーに書面会議のための報告書をポストインしている。 地域交流が制限されている時期であっても、地域とつながりを持てるような工夫はできないだろうか。事業所からの発信など工夫してはどうか。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	コロナの流行により、地域行事が中止となっている。併設施設は過去地域行事への参加を積極的に行っており、グループホームも参加予定だったが現状開催がないため行っていない。			◎		△
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	コロナの流行により出来ていない。					
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	コロナの流行により出来ていない。					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	コロナの流行により出来ていない。					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	コロナの流行により出来ていない。					
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	把握には努めているが支援はあまり出来ていない。					
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	コロナの流行によりあまり出来ていないが、落ち着いたら取り組んでいきたい。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	×	コロナの流行により書面開催となっている。	△		△	地域メンバー、松山市、地域包括支援センターに報告書をもてもらい、書面会議を行っている。さらに、家族等の参加も促してみよう。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	×	コロナの流行により書面開催となっている。			△	活動、利用者の状況を書面で報告している。始めてサービス評価に取り組むため報告はできない。	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	×	コロナの流行により書面開催となっている。			◎	△	地域メンバーには、意見等はないか電話で聞いている。地域行事が中止となったこと等を教えてもらおうが、意見や提案等は出ていない。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	コロナの流行により書面開催となっている。			◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	地域の方、市、包括へは郵送している。					
IVより良い支援を行うための運営体制										
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	毎朝朝礼で理念の唱和をしている。					
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	玄関に大きく飾っている。入居前の契約等でも説明している。	○	◎			
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	ケアの向上につながる研修を受けるようにしている。					
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	職員に合わせた研修を受けるように支援している。					
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	努めている。					
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域密着型サービス協会へも入会し研修にも参加していきたい。(現在すべて中止となっている)					
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	毎週定例会を行い話し合いを行っている。	◎	○	○	管理者はいつでも法人代表に相談できる。管理者が職員の話も聞いている。屋敷をテイクアウトすることもあり、その際は職員の方も注文できる。	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修を行い理解に努めている。					
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	申し送りやユニット会で話し合っている。					
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	ユニット会で伝えている。また勉強会を行っている。			◎	ユニット会等にマニュアルを確認しながら学ぶ機会を持っている。	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日々職員の状態に気を付けている。					
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	研修を行い理解している。身体拘束はしていない。					
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	研修を行っている。					
		c	家族等から拘束や施設等の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	ご家族とはコミュニケーションを図り何でも話し合えるよう信頼関係を築く努力をしている。身体拘束をしない代替案を提示し話し合いを重ねていきたい。					
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	研修を行い理解に努めている。					
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	支援している。					
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	常に連携がとれる体制を築いている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し勉強会を行っている。見やすい場所に掲示している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	緊急時の対応研修は行っているが、実践研修は行っていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	何かあれば職員で話し合い、報告書はタブレットにてすぐ確認でき情報共有している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ユニット会や申し送り等でそれぞれのリスクについて話し合っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルを作成し対応している。マニュアルを用いて研修している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	必要に応じ市町に相談報告を行うが、現時点で苦情はない。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情の際は管理者に報告し速やかに話し合いを行い回答するようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日々困りごとがないか声掛けを行っている。			○	誕生日には、希望を聞いており、食べたいものを手作りしたり購入したりして希望を採り入れている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	ケアプラン更新時などに意見や要望をお伺いし、反映させている。	◎		○	電話やSNS、来訪時に聞いている。面会室をつくっている。
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	契約当初は相談窓口の情報提供を行っている。苦情につながるケースの場合は都度情報提供を行っていききたい。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	定例会を行っている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員一人ひとりと話をする機会を設けている。また都度話をするようにしている。			○	年3回、施設長と管理者が、職員と面談を行い聞いている。
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年1回サービス評価を行っている。				始めてサービス評価に取り組むため評価はできない。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	作成の際は一人で作らず職員の意見を聞き作成している。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	今回初回となる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターしてもらっている。	○	今回初回となる。	△	△	評価困難	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	今回初回となる。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	消防訓練を行っている。マニュアルを作成している。				6月に、職員のみで夜間の火災を想定した避難訓練を行った。災害時は、隣接の法人内事業所間で連携を取るようになっていく。事業所は地区の指定避難場所となっており、災害が発生した場合は、介護の必要な人を受け入れることになっている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	点検を行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	地域の地区防災委員になっている。定期的に地区防災会議にも参加している。コロナの流行によりそれ以後は会議、合同避難訓練が中止となる。施設自体が地域の避難所となっている。また地域の非常備蓄倉庫も作っている。	×	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域の地区防災委員になっている。定期的に地区防災会議にも参加している。コロナの流行によりそれ以後は会議、合同避難訓練が中止となる。施設自体が地域の避難所となっている。また地域の非常備蓄倉庫も作っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	コロナの流行前は、認知症サポーター研修を全職員が受講した。介護教室の依頼もあったがコロナの流行により中止となった。落ち着いてきたら参加していきたい。				現在は、特に取り組んでいない。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	地域の寄り合いがコロナの流行以前はあり参加していたが、現在ない。そういう場での相談はあった。		◎	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェイベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	現在はしていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	以前ボランティアの受け入れをしていたが、現在はしていない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	連携を密にしている。			△	